

平成 28 年度実施事業行政評価に係る外部評価 開催概要

開 催 概 要	
会議等の名称	平成 28 年度実施事業行政評価に係る外部評価⑧ 「5 S 運動」【財政課】
開催日時	平成 29 年 8 月 5 日（土）午前 11 時から正午まで
開催場所	市役所西庁舎 2 階 第 7・8 会議室
出席者氏名 （敬称略）	外部評価委員（長久手市行政改革推進委員） 副会長 中島 美幸 委員 樋口 和則 委員 山口 秋男 委員 島田 智子 担当課 総務部長 青山 均 総務部次長兼財政課長 浦川 正 財政課課長補佐 水草 純 事務局 行政課長 飯島 淳 行政課課長補佐 児玉 剛 同主任 加藤 優作
傍聴者人数	0 人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備 考	

外部評価委員の 意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・この施策は、業務を効率化して、最終的には市民サービスの向上につなげるものである ・評価率を上げるためには、できていない職員への働きかけが必要 ・一般論としては、賛成だが、役所をあげてここまで徹底してやることについては、疑問（製造業と役所では業種が異なる。ある程度やれていればよいと思う。） ・評価指標について、評価率にするよりは、目標に照らしたときに不十分なところに目を向けるような指標の方がよい ・指標として、効率的、効果的に遂行できているかを数値化できるとよい（職員の意識（認識）を指標とした方がよい。ツールそのものではなく、ツールを通して得た結果を測るような指標を用いてほしい。） ・「意図」は市民サービスの向上であり、5 S はそれにつなげるための職員意識を変えていく道具である（目標の評価率の向上は少し違う。この活動のためにあまり時間をかけなくなるとよい。定着し
----------------	--

	<p>たら、点検の簡易化等を考えてもよい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「職員が気づけるか」という意識の部分は重要 ・効果を測るうえで、職員の意識調査をすること ・トップダウンの施策であるが、これからは職員が改善点を提案するなどのボトムアップを工夫すること（職員がこの施策を深めて、定着させる方法もよいと思う） ・「しつけ」という表現は再考した方がよい（この表現のみ受け身のようを感じる） ・自治体でこのような施策に取り組んでいるところはあるがアレンジしているため、長久手市も柔軟に取り組んでもよい ・評価票の「施策の今後」について、『決められたことを必ず実行していく』という表現は、これからの職員は、『ないことをいかに作り出していくか』が重要となり、これができないと市民の実情に対応できなくなるため、改めた方がよい ・5 Sは日本の色々な企業で長く実施されているため、効果があると思う（世界では評価されている。5 Sが改善活動のベースになっている。） ・市民目線でいくと、業務等の「改善」（意識等）に期待したい。 ・「改善」を行い、それを続けていける仕組みがあるとよい（5 Sはそのベースである） ・5 Sを含めて、改善運動の大きな（全体の）ビジョンとして捉えるとよい ・5 Sの最終目標は職員自発性だと思う ・「イクボス」を参考にしてほしい ・職場環境の改善としてみると、人員配置等も考えてほしい
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5 S運動は施策として、意義があるため、これをベースとして、5 Sの本質である「改善（運動）」につなげることが重要 ・5 S運動の本質等を職員が意識、認識し、動けるようにすること（あわせて職員意識の現状把握を行うこと） ・トップダウンだけでなく、ボトムアップで機能していく取組にしてほしい
---------------	---